

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7621606号
(P7621606)

(45)発行日 令和7年1月27日(2025.1.27)

(24)登録日 令和7年1月17日(2025.1.17)

(51)国際特許分類	F I
E 0 3 D 11/02 (2006.01)	E 0 3 D 11/02 Z
E 0 3 D 11/13 (2006.01)	E 0 3 D 11/13
E 0 3 D 9/08 (2006.01)	E 0 3 D 9/08 A

請求項の数 9 (全11頁)

(21)出願番号	特願2023-30034(P2023-30034)	(73)特許権者	000010087
(22)出願日	令和5年2月28日(2023.2.28)		T O T O株式会社
(65)公開番号	特開2024-122474(P2024-122474 A)		福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号
(43)公開日	令和6年9月9日(2024.9.9)	(74)代理人	100094569
審査請求日	令和6年7月18日(2024.7.18)		弁理士 田中 伸一郎
早期審査対象出願		(74)代理人	100103610
			弁理士 吉 田 和彦
		(74)代理人	100109070
			弁理士 須田 洋之
		(74)代理人	100088694
			弁理士 弟子丸 健
		(74)代理人	100098475
			弁理士 倉澤 伊知郎
		(74)代理人	100130937

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 水洗大便器装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

便器本体、及びこの便器本体の上に配置された温水洗浄便座を有する水洗大便器装置であって、

上記便器本体は、
汚物を受けるボウル部と、
このボウル部の上端に連なり、上記ボウル部を囲むように形成された便器上面と、
上記ボウル部の底部に連通した排水トラップ管路と、を備え、
上記温水洗浄便座は、
本体部と、
この本体部から進退可能に設けられ、洗浄水を噴射する洗浄ノズルと、
上記本体部に対して回転可能に取り付けられ、上記ボウル部を取り囲むように上記便器上面の上に載置される便座と、を備え、
上記便器上面の左右方向の両端には、上方に向けて隆起したせり上がり部が設けられ、
上記温水洗浄便座の上記本体部の一部は上記便器本体の上記せり上がり部の上端よりも下方に突出するように構成され、
上記せり上がり部は、上記便器本体の前方側から後方側に向けて、直線的に高さが高くなるように構成されていることを特徴とする水洗大便器装置。

【請求項2】

上記せり上がり部は、上記便器本体の前方側よりも、後方側が高くなるように構成され

ている請求項 1 記載の水洗大便器装置。

【請求項 3】

上記せり上がり部は、上記便器本体の前端部には設けられていない請求項 1 記載の水洗大便器装置。

【請求項 4】

上記せり上がり部の上端には、平坦な平坦面が形成されている請求項 1 記載の水洗大便器装置。

【請求項 5】

上記せり上がり部の上記平坦面は、上記便器本体の内方に向けて低くなるように傾斜して構成されている請求項 4 記載の水洗大便器装置。

【請求項 6】

上記せり上がり部には、上記平坦面と上記便器上面とを接続する内傾斜面が形成されている請求項 4 記載の水洗大便器装置。

【請求項 7】

上記せり上がり部の上記内傾斜面は、第 1 の曲率半径で、凹状に湾曲して形成されている請求項 6 記載の水洗大便器装置。

【請求項 8】

上記せり上がり部の上記内傾斜面と上記平坦面は、第 2 の曲率半径を有する面で接続され、上記第 1 の曲率半径は、上記第 2 の曲率半径の 2 倍以上大きい請求項 7 記載の水洗大便器装置。

【請求項 9】

上記第 1 の曲率半径は、上記便器本体の前方側よりも、後方側が小さくなるように構成されている請求項 7 記載の水洗大便器装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、水洗大便器装置に関し、特に、便器本体、及びこの便器本体の上に配置された温水洗浄便座を有する水洗大便器装置に関する。

【背景技術】

【0002】

特開 2018 - 123667 号公報（特許文献 1）には、壁掛式便器用取付装置、及び、トイレシステムが記載されている。このトイレシステムにおいては、便器本体が、壁面に埋め込まれた壁掛式便器用取付装置によって壁面に支持され、便器本体の上に温水洗浄機能付き便座ユニットが配置されている。このような壁掛式の便器においては、便座ユニットに温水を供給する給水管や、電力を供給する電源コードが、壁面の中から引き出されており、これらの給水管及び電源コードを便座ユニットに接続した後、便座ユニットを便器本体の上に配置する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2018 - 123667 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、便座ユニットに給水管や電源コードが接続された状態では、便座ユニット（温水洗浄便座）を便器本体上の適所に配置する作業の作業性が低下するという問題がある。特に、便座ユニットが、便器本体の上の適切な位置に配置されていないと、給水管や電源コードが、便器本体と便座ユニットの間に挟まり、これらを傷つけてしまう可能性がある。

【0005】

10

20

30

40

50

従って、本発明は、便器本体上の適切な位置に、温水洗浄便座を容易に配置することができる水洗大便器装置を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上述した課題を解決するために、本発明は、便器本体、及びこの便器本体の上に配置された温水洗浄便座を有する水洗大便器装置であって、便器本体は、汚物を受けるボウル部と、このボウル部の上端に連なり、ボウル部を囲むように形成された便器上面と、ボウル部の底部に連通した排水トラップ管路と、を備え、温水洗浄便座は、本体部と、この本体部から進退可能に設けられ、洗浄水を噴射する洗浄ノズルと、本体部に対して回動可能に取り付けられ、ボウル部を取り囲むように便器上面の上に載置される便座と、を備え、便器上面の左右方向の両端には、上方に向けて隆起したせり上がり部が設けられ、温水洗浄便座の本体部は便器本体のせり上がり部の上端よりも下方に突出するように構成されていることを特徴としている。

10

【0007】

このように構成された本発明によれば、便器本体の便器上面に、左右方向の両端にせり上がり部が設けられているので、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する際、作業者は、温水洗浄便座を配置すべき適正な位置を容易に認識することができる。これにより、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する作業の作業性を向上させることができる。

【0008】

本発明において、好ましくは、せり上がり部は、便器本体の前方側よりも、後方側が高くなるように構成されている。

20

【0009】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部が、便器本体の前方側よりも後方側が高くなるように構成されているので、温水洗浄便座の後方側に設けられた本体部の位置を、より正確に位置決めすることができ、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を更に向上させることができる。

【0010】

本発明において、好ましくは、せり上がり部は、便器本体の前方側から後方側に向けて、直線的に高さが高くなるように構成されている。

【0011】

30

このように構成された本発明によれば、せり上がり部が、前方側から後方側に向けて、直線的に高さが高くされているので、温水洗浄便座を配置する際、温水洗浄便座の前部を把持した作業者の手と、せり上がり部が干渉しにくく、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を、より向上させることができる。

【0012】

本発明において、好ましくは、せり上がり部は、便器本体の前端部には設けられていない。

【0013】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部が便器本体の前端部に設けられていないので、温水洗浄便座を便器本体の前方側から、適正位置に配置する際、温水洗浄便座とせり上がり部が干渉しにくく、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を、更に向上させることができる。

40

【0014】

本発明において、好ましくは、せり上がり部の上端には、平坦な平坦面が形成されている。

【0015】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部の上端に平坦面が形成されているので、便器本体の製造時や、運搬時において、突出しているせり上がり部が損傷されるのを防止することができる。

【0016】

50

本発明において、好ましくは、せり上がり部の平坦面は、便器本体の内方に向けて低くなるように傾斜して構成されている。

【 0 0 1 7 】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部の平坦面が便器本体の内方に向けて低くなるように傾斜しているので、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する作業が平坦面によっても案内され、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を、更に向上させることができる。

【 0 0 1 8 】

本発明において、好ましくは、せり上がり部には、平坦面と便器上面とを接続する内傾斜面が形成されている。

【 0 0 1 9 】

このように構成された本発明によれば、平坦面と便器上面とを接続する内傾斜面がせり上がり部に形成されているので、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する作業が内傾斜面によっても案内され、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を、より向上させることができる。

【 0 0 2 0 】

本発明において、好ましくは、せり上がり部の内傾斜面は、第 1 の曲率半径で、凹状に湾曲して形成されている。

【 0 0 2 1 】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部の内傾斜面が、第 1 の曲率半径で凹状に湾曲しているので、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する作業が内傾斜面によって滑らかに案内され、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を向上させることができる。

【 0 0 2 2 】

本発明において、好ましくは、せり上がり部の内傾斜面と平坦面は、第 2 の曲率半径を有する面で接続され、第 1 の曲率半径は、第 2 の曲率半径の 2 倍以上大きい。

【 0 0 2 3 】

このように構成された本発明によれば、せり上がり部の内傾斜面の第 1 の曲率半径が、内傾斜面と平坦面を接続する面の第 2 の曲率半径の 2 倍以上大きく構成されているので、温水洗浄便座を便器本体の上に配置する作業を、より滑らかに案内することができ、温水洗浄便座を配置する作業の作業性を向上させることができる。

【 0 0 2 4 】

本発明において、好ましくは、第 1 の曲率半径は、便器本体の前方側よりも、後方側が小さくなるように構成されている。

【 0 0 2 5 】

このように構成された本発明によれば、内傾斜面の第 1 の曲率半径が、便器本体の前方側よりも、後方側が小さくなるように構成されているので、温水洗浄便座を配置する作業において、温水洗浄便座の後部が、より厳密に案内され、温水洗浄便座後部の本体部を、より正確に位置決めすることができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 6 】

本発明の水洗大便器装置によれば、温水洗浄便座を、便器本体上の適切な位置に、容易に配置することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 7 】

【 図 1 】 本発明の実施形態の水洗大便器装置全体を示す斜視図である。

【 図 2 】 本発明の実施形態の水洗大便器装置を、便器本体と温水洗浄便座に分解した状態を示す斜視図である。

【 図 3 】 本発明の実施形態の水洗大便器装置の全断面図である。

【 図 4 】 本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の IV - IV 線に沿って切断した部分拡大断面図である。

10

20

30

40

50

【図 5】本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の V - V 線に沿って切断した部分拡大断面図である。

【図 6】本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の VI - VI 線に沿って切断した部分拡大断面図である。

【図 7】本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の VII - VII 線に沿って切断した部分拡大断面図である。

【図 8】本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の IIX - IIX 線に沿って切断した部分拡大断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0028】

次に、添付図面を参照して、本発明の実施形態による水洗大便器装置を説明する。

図 1 は、本発明の実施形態の水洗大便器装置全体を示す斜視図であり、温水洗浄便座の便座カバーを開けた状態を示している。図 2 は、本発明の実施形態の水洗大便器装置を、便器本体と温水洗浄便座に分解した状態を示す斜視図である。図 3 は、本発明の実施形態の水洗大便器装置の全断面図である。

【0029】

図 1 に示すように、本発明の実施形態の水洗大便器装置 1 は、便器本体 2 と、この便器本体 2 の上に配置された温水洗浄便座 4 と、を有する。また、本実施形態の水洗大便器装置 1 は、壁面 W に取り付け使用される壁掛け式の水洗大便器であり、便器本体 2 に洗浄水を供給する貯水タンクや、汚物及び洗浄水を排出するための排水管（以上、図示せず）が、壁面 W の裏側に埋め込まれている。本実施形態において、便器本体 2 は陶器製である。なお、本明細書においては、便器本体 2 の壁面 W に近い側を便器本体 2 の後方側と呼び、その反対側を便器本体 2 の前方側と呼ぶものとする。また、壁面 W に平行な方向を、便器本体 2 の左右方向と呼ぶものとする。

【0030】

図 2 及び図 3 に示すように、便器本体 2 は、汚物を受けるボウル部 2 a と、ボウル部 2 a の底部に連通した排水トラップ管路 2 b と、を有する。さらに、便器本体 2 の上面には、ボウル部 2 a を囲むように便器上面 2 c が形成されている。この便器上面 2 c は、ボウル部 2 a 上端の縁と連っており、ほぼ水平方向に延びている。さらに、図 3 に示すように、ボウル部 2 a の上端部には、リム部 2 d が形成されており、このリム部 2 d に沿って洗浄水を吐出させるようにリム吐水口 2 e が形成されている。便器洗浄時には、リム吐水口 2 e から吐出された洗浄水により、ボウル部 2 a の内壁面が洗浄されると共に、ボウル部 2 a 内の汚物及びボウル部 2 a の底部に溜められた溜水が、排水トラップ管路 2 b を通って排出される。

【0031】

一方、図 1 に示すように、温水洗浄便座 4 は、本体部 4 a と、この本体部 4 a から進退可能に設けられた洗浄ノズル 4 b と、本体部 4 a に対して回動可能に取り付けられた便座 4 c と、この便座 4 c を覆うように、本体部 4 a に対して回動可能に取り付けられた便座カバー 4 d と、を有する。

【0032】

本体部 4 a は、便器本体 2 の上面の後方側に配置され、内部には、洗浄ノズル 4 b や、洗浄ノズル 4 b の駆動機構、洗浄ノズル 4 b への洗浄水の給水系統（以上、図示せず）等が収容されている。また、図 2 に示すように、便器本体 2 の上面には、開口部 2 f が形成されており、この開口部 2 f の中に、本体部 4 a の底部が突出する。なお、本実施形態において、壁面 W から引き出され、温水洗浄便座 4 に温水を供給する給水管（図示せず）、及び温水洗浄便座 4 に電力を供給する電源コード（図示せず）は、便器本体 2 の内部から開口部 2 f を通って本体部 4 a に接続される。

【0033】

洗浄ノズル 4 b（図 1）は、本体部 4 a に対し、便器本体 2 の前後方向に進退可能に取り付けられている。また、使用時において、洗浄ノズル 4 b は、本体部 4 a から前方斜め

10

20

30

40

50

下方に進出し、先端部に設けられた噴射口（図示せず）から洗浄水を噴射する。これにより、水洗大便器装置 1 の使用者の局部が洗浄される。

【0034】

図 1 に示すように、便座 4 c は、本体部 4 a に対して回動可能に取り付けられ、水洗大便器装置 1 の使用者が座るために、ポウル部 2 a を取り囲むように便器上面 2 c の上に載置される。また、便座 4 c が便器上面 2 c の上に載置された状態では、便器本体 2 の上面は、本体部 4 a 及び便座 4 c により覆われる。さらに、便座 4 c の底面には 4 つの脚部 4 e（図 2）が設けられており、これらの脚部 4 e と便器本体 2 の便器上面 2 c が当接することにより、便座 4 c が便器本体 2 の上方に支持される。

【0035】

便座カバー 4 d は、本体部 4 a の後部に回動可能に取り付けられている。便座カバー 4 d を閉じた状態においては、温水洗浄便座 4 の本体部 4 a 及び便座 4 c が便座カバー 4 d によって覆われる。

【0036】

次に、図 2 及び図 4 乃至図 8 を参照して、便器本体 2 の便器上面 2 c に設けられているせり上がり部の構成を説明する。

図 4 乃至図 8 は、本発明の実施形態の水洗大便器装置を、図 2 の IV - IV 線乃至 IIX - IIX 線に沿って切断した断面において、せり上がり部を拡大して示す図である。ここで、図 4 は、水洗大便器装置 1 を、ポウル部 2 a の前端部近傍で切断した断面図であり、以下、図 5 乃至図 8 は、順に、ポウル部 2 a の後部側に近い位置で切断した断面を示している。

【0037】

図 2 に示すように、便器本体 2 の便器上面 2 c には、その左右方向の両端に、上方に向けて隆起したせり上がり部 6 が設けられている。即ち、便器上面 2 c の左右方向の両端にせり上がり部 6 を設けることにより、便器上面 2 c の両端は、せり上がり、高くなっている。このせり上がり部 6 により、便器本体 2 の便器上面 2 c に温水洗浄便座 4 を配置する作業者は、視覚的に、そして手指の感触により、温水洗浄便座 4 を配置すべき正確な位置を認識することができ、作業性が向上する。また、温水洗浄便座 4 の本体部 4 a は、便器本体 2 上に配置された状態において、その一部が、便器上面 2 c に設けられたせり上がり部 6 の上端よりも下方に突出するように構成されている。

【0038】

ここで、便器本体 2 の便器上面 2 c は概ね平面であり、水平方向に向けられているのに対し、せり上がり部 6 の高さは、便器本体 2 の後方側が高くなるように構成されている。このため、せり上がり部 6 の上端は、水平面に対し、便器本体 2 の後方側が高くなるように傾斜し、せり上がり部 6 は、便器本体 2 の前方側から後方側に向けて、直線的に高さが高くなっている。そして、便器本体 2 の前端部付近では、せり上がり部 6 の高さはゼロに近くなり、便器本体 2 の前端部（便器上面 2 c の前方側の縁部の領域）にはせり上がり部 6 は設けられていない。このように、便器本体 2 の前端部にせり上がり部 6 が設けられていないことにより、せり上がり部 6 が、便器本体 2 の前方側から便器上面 2 c に温水洗浄便座 4 を配置する作業の邪魔にならず、作業性を向上させることができる。

【0039】

また、図 4 乃至図 8 に示すように、便座 4 c は、せり上がり部 6 の少なくとも一部を上方から覆うように配置されている。さらに、便座 4 c の底面に設けられた脚部 4 e（図 5）により、便器本体 2 の便器上面 2 c と便座 4 c の底面の間に所定の隙間が形成されている。また、図 4 乃至図 6 に示すように、便座 4 c は、外周縁における厚さが、内周縁における厚さよりも薄くなるように構成されており、便器上面 2 c から隆起しているせり上がり部 6 が便座 4 c の底面と干渉しないようになっている。

【0040】

さらに、図 4 乃至図 8 に示すように、せり上がり部 6 の上端には、概ね平坦に形成された平坦面 6 a が形成されている。このように、せり上がり部 6 の上端に平坦面 6 a を設けることにより、便器本体 2 の搬送時等に、せり上がり部 6 が損傷するのを防止することが

10

20

30

40

50

できる。

【 0 0 4 1 】

また、平坦面 6 a は、便器本体 2 の左右方向の断面図において、便器本体 2 の内方に向けて低くなるように傾斜している。このように、平坦面 6 a を内方に向けて低くなるように傾斜させることにより、便器上面 2 c に温水洗浄便座 4 を配置する際、作業者は手指の感触で温水洗浄便座 4 を配置すべき位置を認識することができ、容易に適正な位置に温水洗浄便座 4 を配置することができる。さらに、便器本体 2 の便器上面 2 c と、せり上がり部 6 の平坦面 6 a の間は、内傾斜面 6 b によって滑らかに接続されている。

【 0 0 4 2 】

この内傾斜面 6 b は、便器本体 2 の左右方向の断面図において、第 1 の曲率半径 R 1 で凹状に湾曲している。さらに、平坦な平坦面 6 a と、凹状に湾曲した内傾斜面 6 b の間も滑らかに接続されており、この平坦面 6 a と内傾斜面 6 b を接続する部分（面）は、便器本体 2 の左右方向の断面図において、第 2 の曲率半径 R 2 で丸められている。

10

【 0 0 4 3 】

ここで、凹状に湾曲した内傾斜面 6 b の有する第 1 の曲率半径 R 1 は、図 4 から図 8 にかけて次第に小さくなっている。即ち、第 1 の曲率半径 R 1 は、便器本体 2 の前方側よりも、後方側が徐々に小さくなるように構成されている。このように、内傾斜面 6 b の第 1 の曲率半径 R 1 を後方側において小さくすることにより、温水洗浄便座 4 の本体部 4 a を配置すべき左右方向の位置が、より明確となり、温水洗浄便座 4 を適正な位置に配置しやすくなる。なお、本実施形態において、内傾斜面 6 b の第 1 の曲率半径 R 1 は、内傾斜面 6 b と平坦面 6 a を接続する第 2 の曲率半径 R 2 の 2 倍以上の大きさに構成されている。

20

【 0 0 4 4 】

本発明の実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、便器本体 2 の便器上面 2 c に、左右方向の両端にせり上がり部 6 が設けられている（図 2）ので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する際、作業者は、温水洗浄便座 4 を配置すべき適正な位置を容易に認識することができる。これにより、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する作業の作業性を向上させることができる。

【 0 0 4 5 】

また、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 が、便器本体 2 の前方側よりも後方側が高くなるように構成されている（図 2）ので、温水洗浄便座 4 の後方側に設けられた本体部 4 a の位置を、より正確に位置決めすることができ、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を更に向上させることができる。

30

【 0 0 4 6 】

さらに、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 が、前方側から後方側に向けて、直線的に高さが高くされている（図 2）ので、温水洗浄便座 4 を配置する際、温水洗浄便座 4 の前部を把持した作業者の手と、せり上がり部 6 が干渉しにくく、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を、より向上させることができる。

【 0 0 4 7 】

また、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 が便器本体 2 の前端部に設けられていない（図 2）ので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の前方側から、適正位置に配置する際、温水洗浄便座 4 とせり上がり部 6 が干渉しにくく、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を、更に向上させることができる。

40

【 0 0 4 8 】

さらに、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 の上端に平坦面 6 a が形成されている（図 4 乃至図 8）ので、便器本体 2 の製造時や、運搬時において、突出しているせり上がり部 6 が損傷されるのを防止することができる。

【 0 0 4 9 】

また、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 の平坦面 6 a が便器本体 2 の内方に向けて低くなるように傾斜している（図 4 乃至図 8）ので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する作業が平坦面 6 a によっても案内され、温水洗浄便座 4 を配

50

置する作業の作業性を、更に向上させることができる。

【 0 0 5 0 】

さらに、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、平坦面 6 a と便器上面 2 c とを接続する内傾斜面 6 b がせり上がり部 6 に形成されている（図 4 乃至図 8）ので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する作業が内傾斜面 6 b によっても案内され、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を、より向上させることができる。

【 0 0 5 1 】

また、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 の内傾斜面 6 b が、第 1 の曲率半径 R 1 で凹状に湾曲している（図 4 乃至図 8）ので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する作業が内傾斜面 6 b によって滑らかに案内され、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を向上させることができる。

10

【 0 0 5 2 】

さらに、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、せり上がり部 6 の内傾斜面 6 b の第 1 の曲率半径 R 1 が、内傾斜面 6 b と平坦面 6 a を接続する面の第 2 の曲率半径 R 2 の 2 倍以上大きく構成されているので、温水洗浄便座 4 を便器本体 2 の上に配置する作業を、より滑らかに案内することができ、温水洗浄便座 4 を配置する作業の作業性を向上させることができる。

【 0 0 5 3 】

また、本実施形態の水洗大便器装置 1 によれば、内傾斜面 6 b の第 1 の曲率半径 R 1 が、便器本体 2 の前方側よりも、後方側が小さくなるように構成されているので、温水洗浄便座 4 を配置する作業において、温水洗浄便座 4 の後部が、より厳密に案内され、温水洗浄便座 4 後部の本体部 4 a を、より正確に位置決めすることができる。

20

【 0 0 5 4 】

以上、本発明の実施形態の水洗大便器装置 1 を説明したが、上述した実施形態に種々の変更を加えることができる。特に、上述した実施形態においては、本発明を壁掛け式の水洗大便器装置 1 に適用していたが、床置き式の水洗大便器装置に本発明を適用することもできる。また、上述した実施形態においては、水洗大便器装置 1 を設置した壁面 W から延びる給水管、電源コードが、便器本体 2 の内部を通して、温水洗浄便座 4 の本体部 4 a に接続されていた。しかしながら、壁面又は床面から延びる給水管及び／又は電源コードが、便器本体の外部を通して温水洗浄便座に接続される水洗大便器装置に本発明を適用することもできる。

30

【符号の説明】

【 0 0 5 5 】

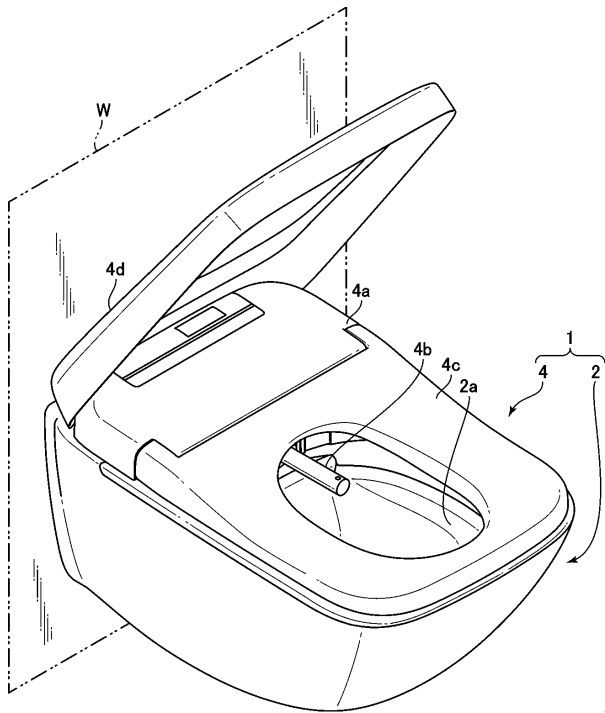
- 1 水洗大便器装置
- 2 便器本体
- 2 a ボウル部
- 2 b 排水トラップ管路
- 2 c 便器上面
- 2 d リム部
- 2 e リム吐水口
- 2 f 開口部
- 4 温水洗浄便座
- 4 a 本体部
- 4 b 洗浄ノズル
- 4 c 便座
- 4 d 便座カバー
- 4 e 脚部
- 6 せり上がり部
- 6 a 平坦面
- 6 b 内傾斜面

40

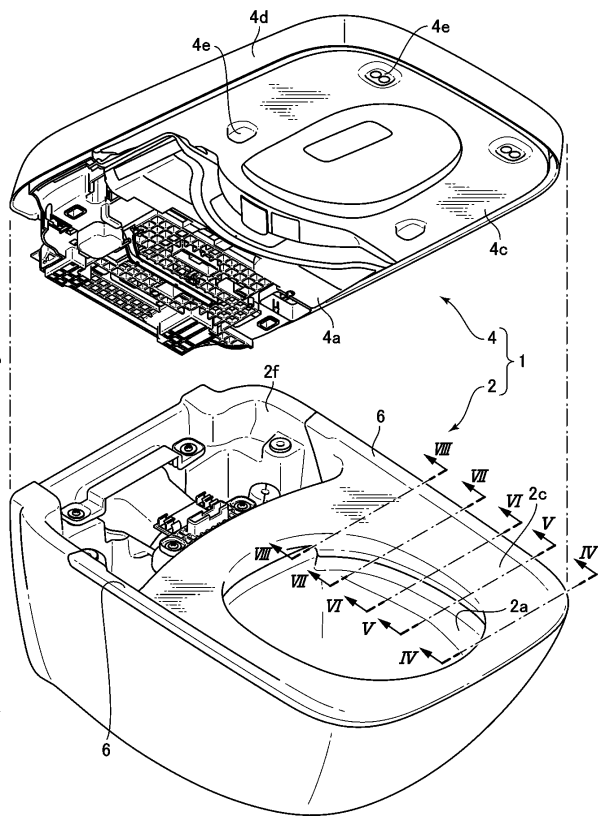
50

【図面】

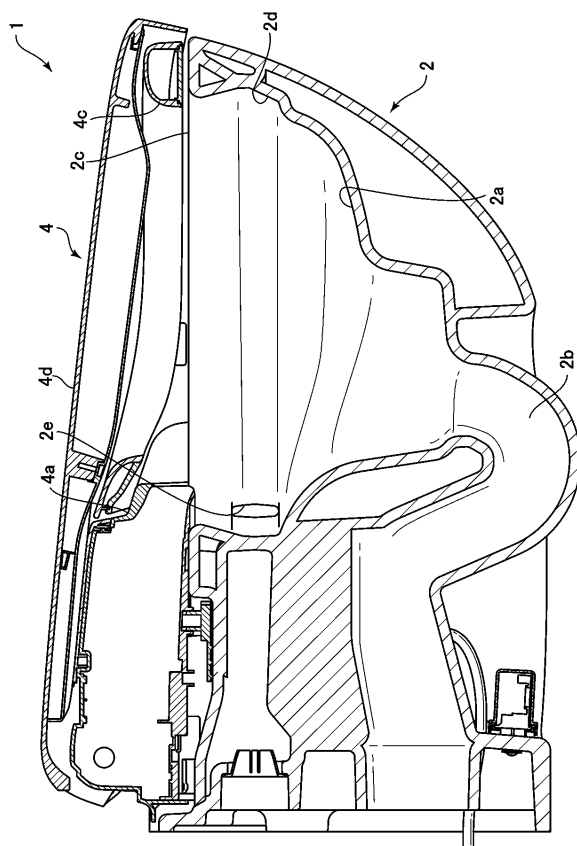
【図 1】



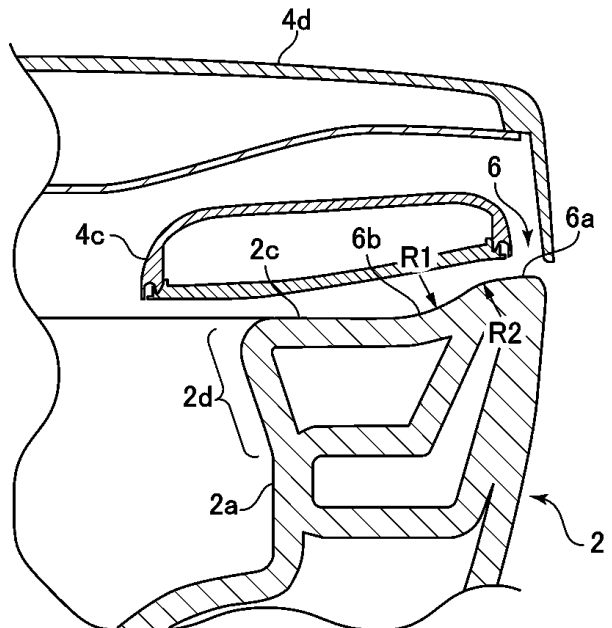
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

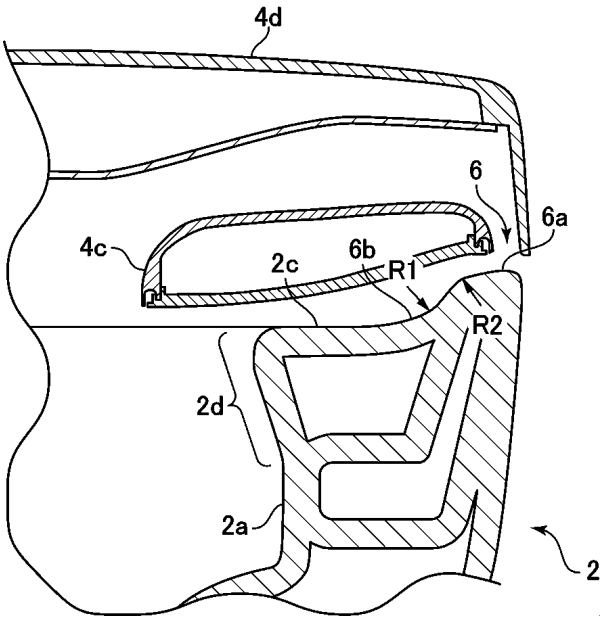
20

30

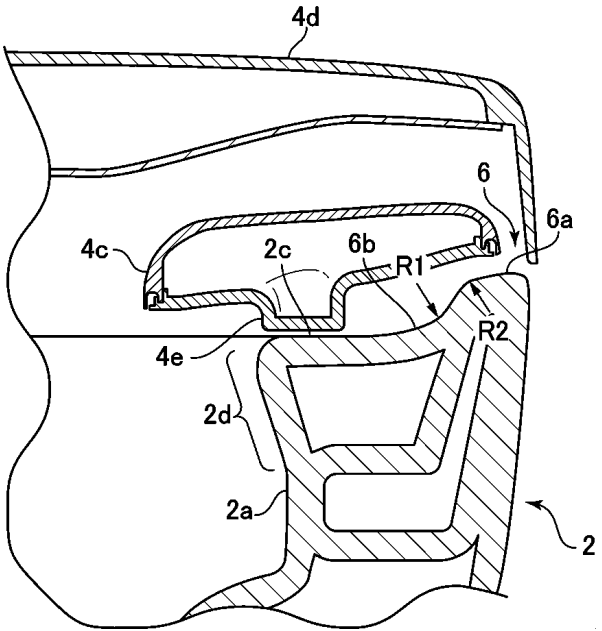
40

50

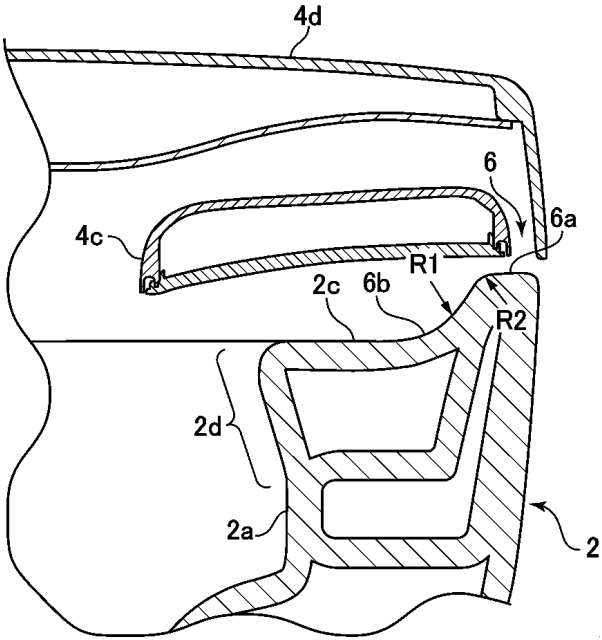
【図 5】



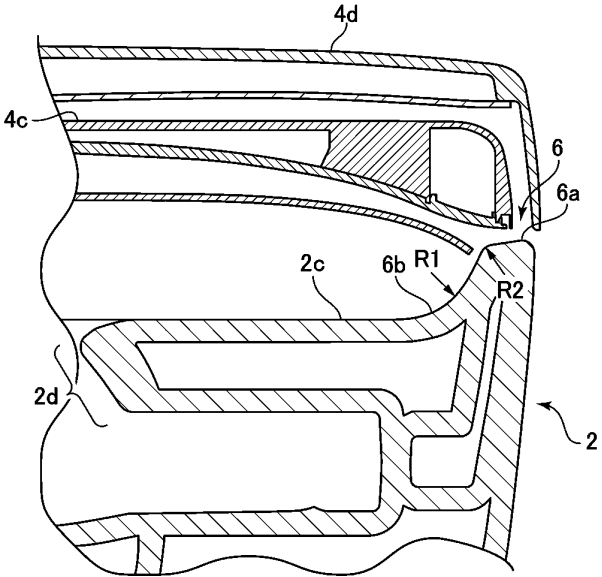
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

弁理士 山本 泰史
(74)代理人 100144451
弁理士 鈴木 博子
(74)代理人 100123630
弁理士 渡邊 誠
(72)発明者 篠原 祐紀
福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号 TOTO株式会社内
(72)発明者 橋本 博
福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号 TOTO株式会社内
審査官 柿原 巧弥
(56)参考文献 特開2018-123632(JP,A)
特開2018-123621(JP,A)
特開2015-007313(JP,A)
実開昭58-120287(JP,U)
実開昭50-049937(JP,U)
特開2021-107628(JP,A)
特開2006-009364(JP,A)
実開昭59-130595(JP,U)
(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
E03D 11/02
E03D 11/13
E03D 9/08